

2020/4/21

柏の景気情報(2020年3月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(2020年3月分)

○ 調査期間 : 2020年3月25日 ~ 2020年4月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	19	43.2%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	44	25	56.8%
サービス	35	14	40.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【2020年3月の業況についての状況】

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.5(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が19.7ポイント拡大した。※DI値▲50台はリーマンショック以来のマイナス値。東日本大震災時より悪化。

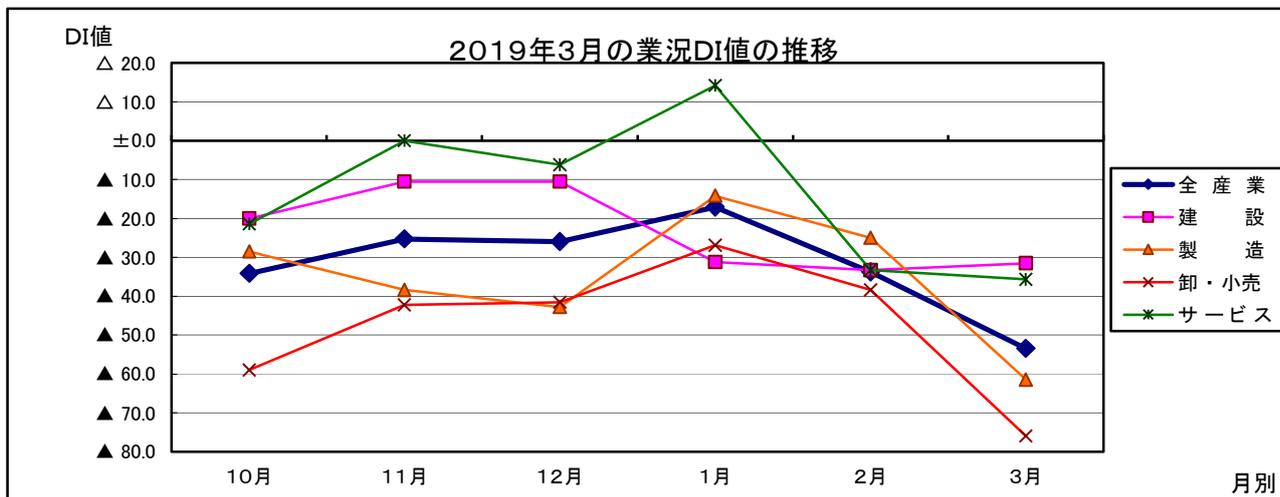
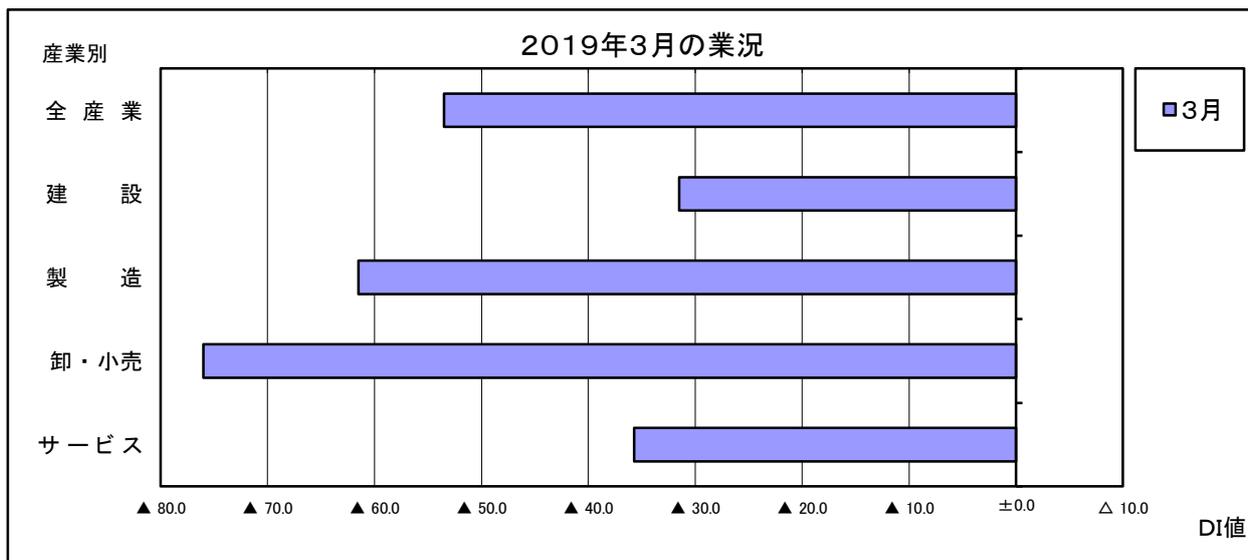
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲31.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲76.0(同▲38.4)、製造業▲61.5(同▲25.0)、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲59.1(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が31.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲13.3)、建設業▲52.6(同▲22.2)、卸小売業▲72.0(同▲42.3)、製造業▲53.8(同▲25.0)である。

2020年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲34.2	▲25.3	▲26.0	▲17.1	▲33.8	▲53.5	▲59.1(▲28.1)
建設	▲20.0	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲33.3	▲31.5	▲52.6(▲22.2)
製造	▲28.5	▲38.4	▲42.8	▲14.2	▲25.0	▲61.5	▲53.8(▲25.0)
卸・小売	▲59.0	▲42.3	▲41.6	▲26.9	▲38.4	▲76.0	▲72.0(▲42.3)
サービス	▲21.4	±0.0	▲6.2	△14.2	▲33.3	▲35.7	▲50.0(▲13.3)



【2020年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.4(前月水準▲28.1)となり、マイナス幅が18.3ポイント拡大した。

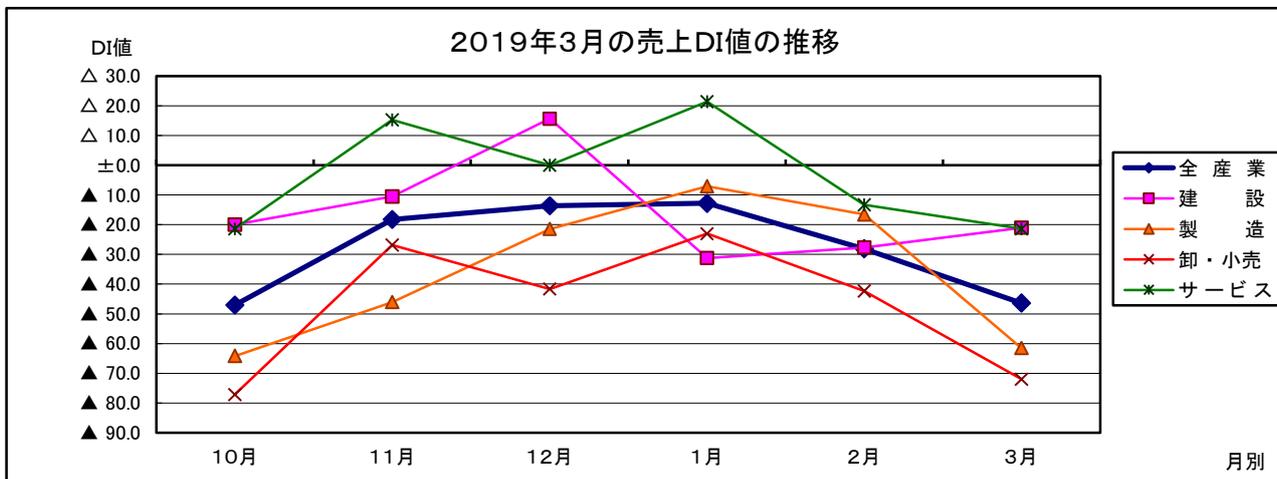
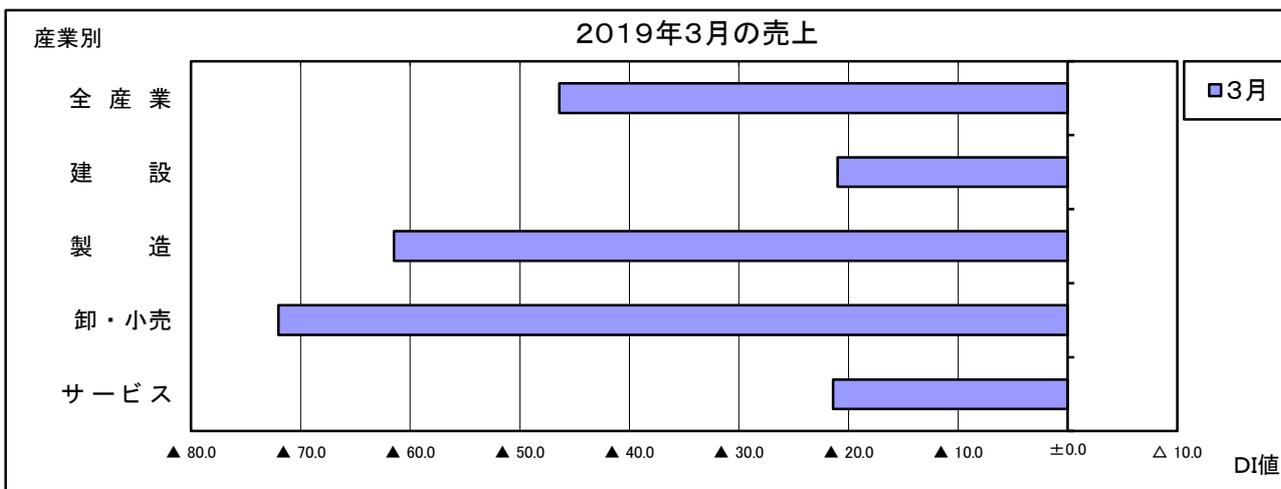
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲21.0(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.5(同▲16.6)、卸小売業▲72.0(同▲42.3)、サービス業▲21.4(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲59.1(前月水準▲36.6)となり、マイナス幅が22.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲38.4(同▲41.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲64.2(同▲20.0)、建設業▲52.6(同▲22.2)、卸小売業▲72.0(同▲53.8)である。

2020年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲47.1	▲18.3	▲13.6	▲12.8	▲28.1	▲46.4	▲59.1(▲36.6)
建設	▲20.0	▲10.5	△15.7	▲31.2	▲27.7	▲21.0	▲52.6(▲22.2)
製造	▲64.2	▲46.1	▲21.4	▲7.1	▲16.6	▲61.5	▲38.4(▲41.6)
卸・小売	▲77.2	▲26.9	▲41.6	▲23.0	▲42.3	▲72.0	▲72.0(▲53.8)
サービス	▲21.4	△15.3	±0.0	△21.4	▲13.3	▲21.4	▲64.2(▲20.0)



【2020年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲52.1(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が22.6ポイント拡大した。

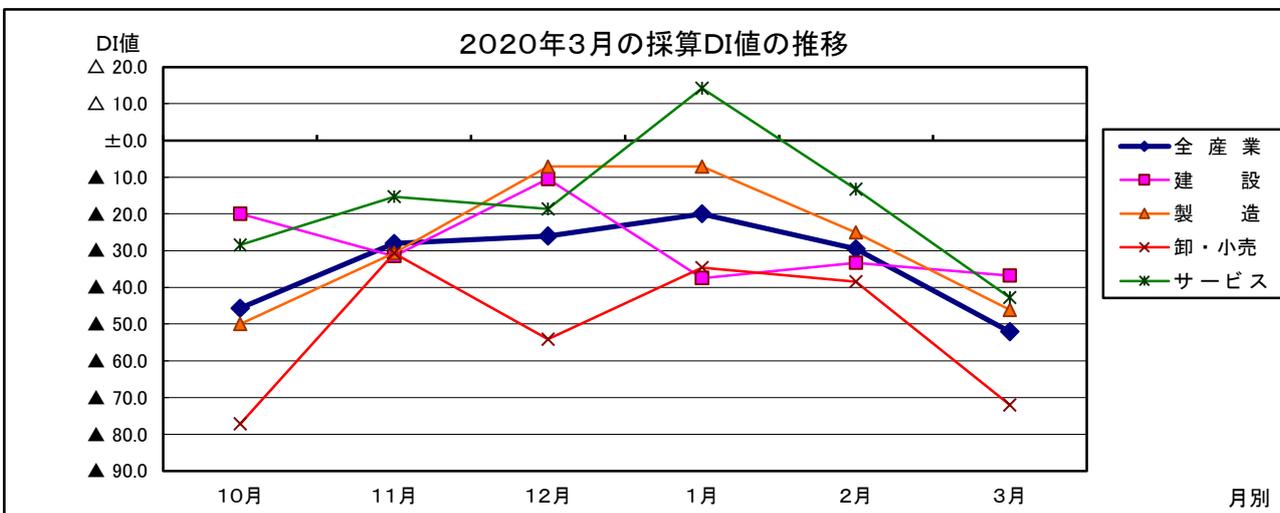
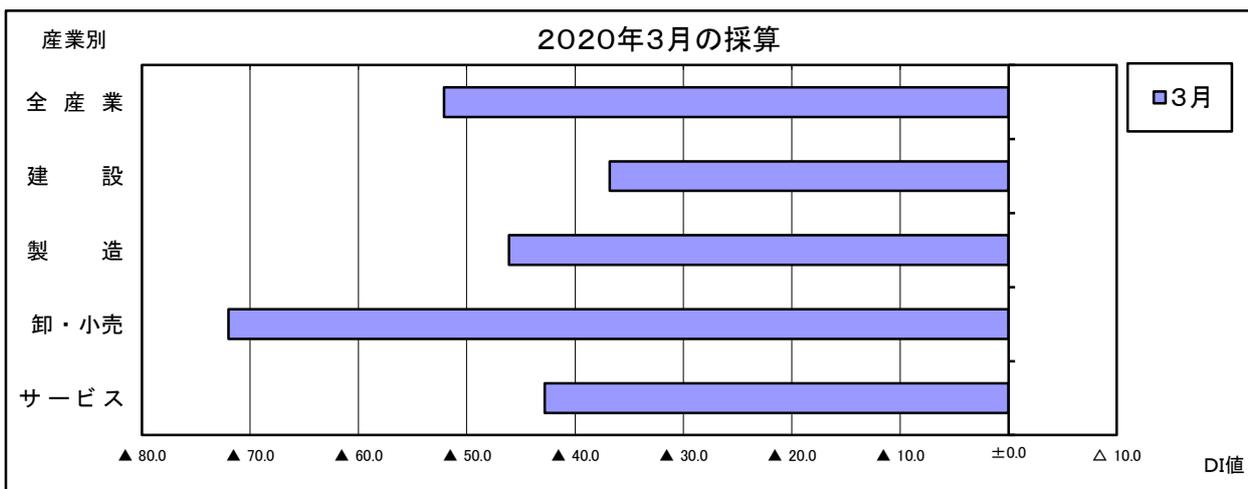
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲72.0(同▲38.4)、サービス業▲42.8(同▲13.3)、製造業▲46.1(同▲25.0)、建設業▲36.8(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲57.7(前月水準▲30.9)であり、マイナス幅が26.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲64.2(同▲13.3)、卸小売業▲68.0(同▲34.6)、建設業▲47.3(同▲33.3)、製造業▲46.1(同▲41.6)である。

2020年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲45.7	▲28.1	▲26.0	▲20.0	▲29.5	▲52.1	▲57.7(▲30.9)
建設	▲20.0	▲31.5	▲10.5	▲37.5	▲33.3	▲36.8	▲47.3(▲33.3)
製造	▲50.0	▲30.7	▲7.1	▲7.1	▲25.0	▲46.1	▲46.1(▲41.6)
卸・小売	▲77.2	▲30.7	▲54.1	▲34.6	▲38.4	▲72.0	▲68.0(▲34.6)
サービス	▲28.5	▲15.3	▲18.7	△14.2	▲13.3	▲42.8	▲64.2(▲13.3)



【2020年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準▲30.9)となり、マイナス幅が18.3ポイント縮小した。

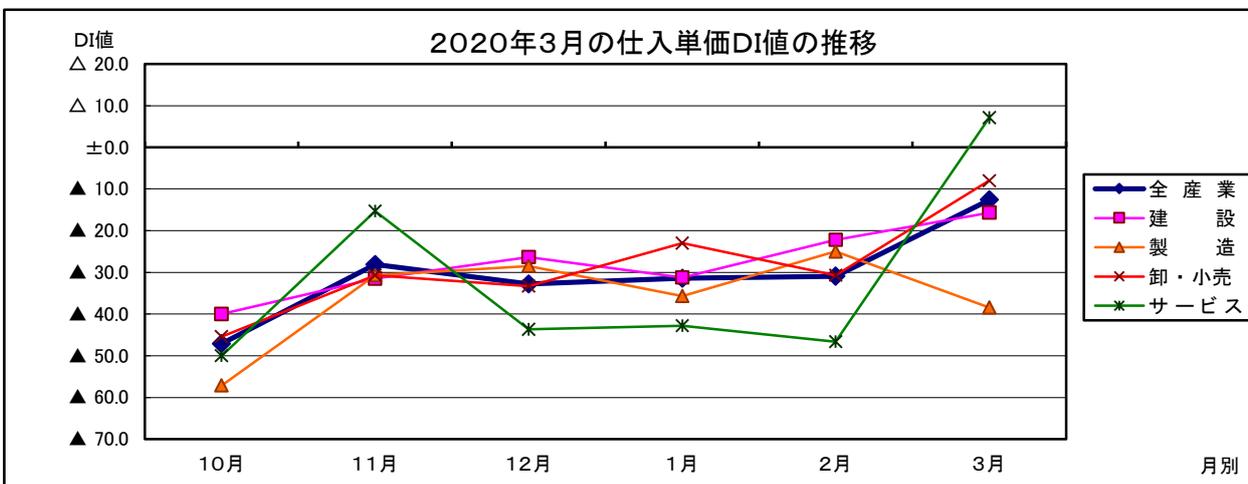
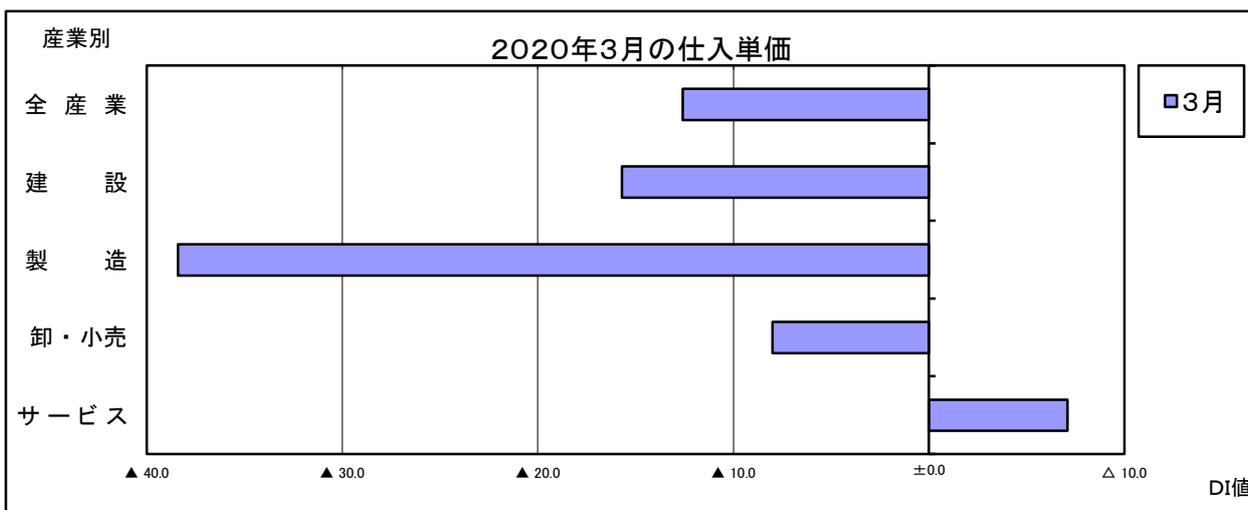
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.1(同▲46.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲8.0(同▲30.7)、建設業▲15.7(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲38.4(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.0(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が15.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△7.1(同▲33.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲12.0(同▲34.6)、建設業▲21.0(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲30.7(同▲16.6)である。

2020年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲47.1	▲28.1	▲32.8	▲31.4	▲30.9	▲12.6	▲14.0(▲29.5)
建設	▲40.0	▲31.5	▲26.3	▲31.2	▲22.2	▲15.7	▲21.0(▲27.7)
製造	▲57.1	▲30.7	▲28.5	▲35.7	▲25.0	▲38.4	▲30.7(▲16.6)
卸・小売	▲45.4	▲30.7	▲33.3	▲23.0	▲30.7	▲8.0	▲12.0(▲34.6)
サービス	▲50.0	▲15.3	▲43.7	▲42.8	▲46.6	△7.1	△7.1(▲33.3)



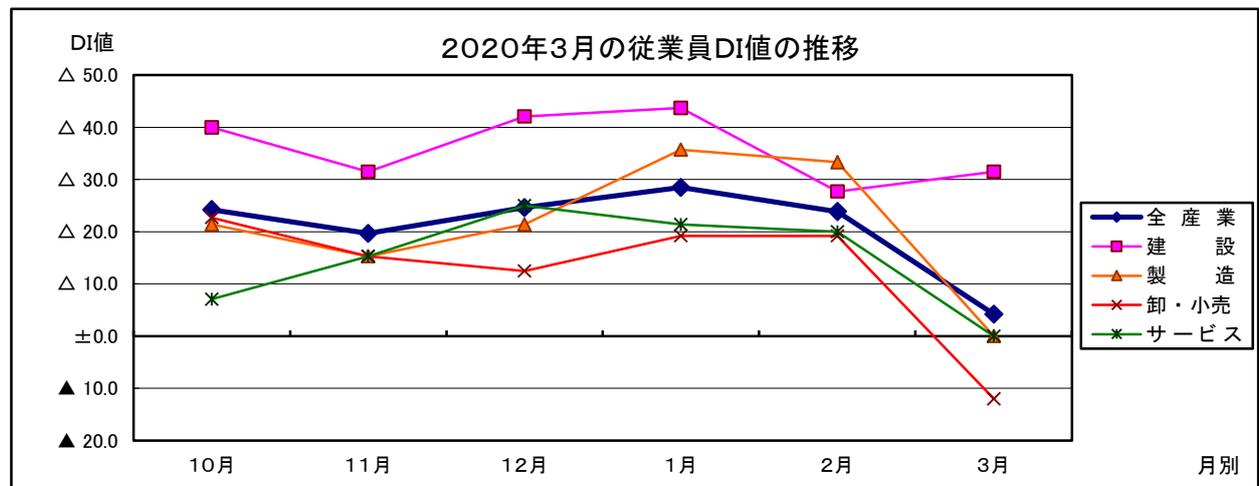
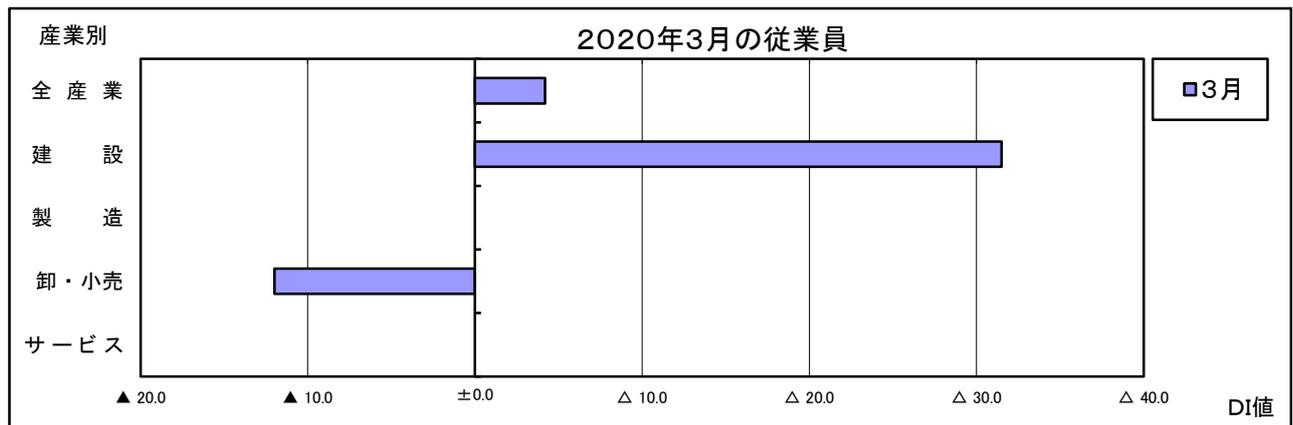
【2020年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4. 2(前月水準△23. 9)となり、プラス幅が19. 7ポイント縮小した。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△31. 5(同△27. 7)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0. 0(同△33. 3)、サービス業±0. 0(同△20. 0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲12. 0(同△19. 2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、±0. 0(前月水準△19. 7)となり、プラス幅が19. 7ポイント縮小する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同△20. 0)、建設業△21. 0(同△22. 2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲15. 3(同△33. 3)、卸小売業▲8. 0(同△11. 5)である。

2020年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△ 24.2	△ 19.7	△ 24.6	△ 28.5	△ 23.9	△ 4.2	±0.0 (△ 19.7)
建設	△ 40.0	△ 31.5	△ 42.1	△ 43.7	△ 27.7	△ 31.5	△ 21.0 (△ 22.2)
製造	△ 21.4	△ 15.3	△ 21.4	△ 35.7	△ 33.3	±0.0	▲ 15.3 (△ 33.3)
卸・小売	△ 22.7	△ 15.3	△ 12.5	△ 19.2	△ 19.2	▲ 12.0	▲ 8.0 (△ 11.5)
サービス	△ 7.1	△ 15.3	△ 25.0	△ 21.4	△ 20.0	±0.0	±0.0 (△ 20.0)



【2020年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が11.3ポイント拡大した。

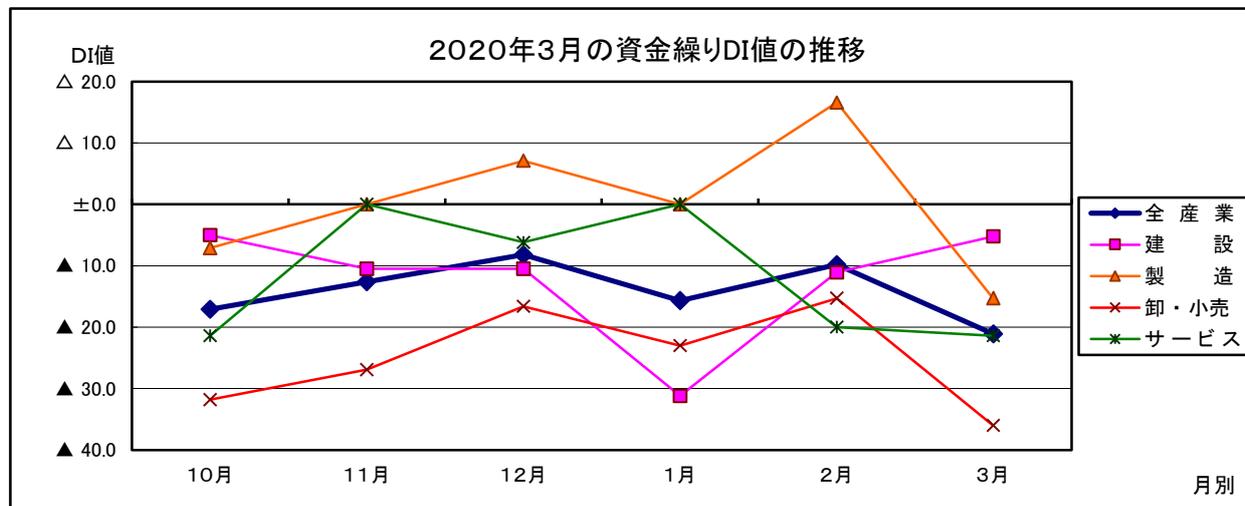
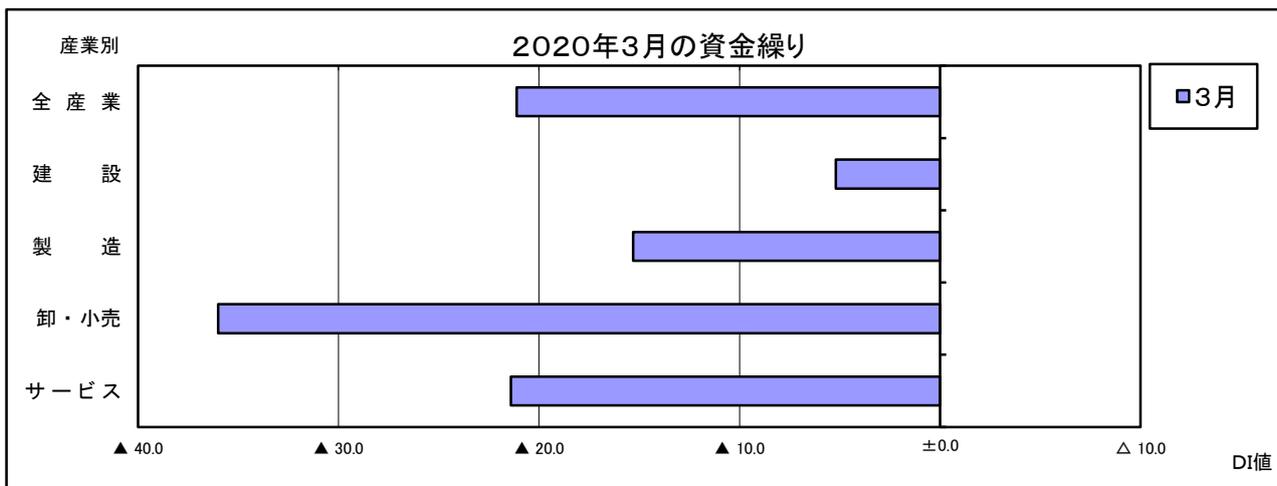
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.2(同▲11.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲15.3(同△16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.0(同▲15.3)、サービス業▲21.4(同▲20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.6(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が25.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲52.0(同▲19.2)、製造業▲30.7(同±0.0)、サービス業▲35.7(同▲13.3)、建設業▲21.0(同▲5.5)である。

2020年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	2019年 10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲17.1	▲12.6	▲8.2	▲15.7	▲9.8	▲21.1	▲36.6(▲11.2)
建設	▲5.0	▲10.5	▲10.5	▲31.2	▲11.1	▲5.2	▲21.0(▲5.5)
製造	▲7.1	±0.0	△7.1	±0.0	△16.6	▲15.3	▲30.7(±0.0)
卸・小売	▲31.8	▲26.9	▲16.6	▲23.0	▲15.3	▲36.0	▲52.0(▲19.2)
サービス	▲21.4	±0.0	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲21.4	▲35.7(▲13.3)



【2020年3月の調査結果のポイント】

《全産業DIは再び大幅悪化。新型コロナウイルスの影響は深刻で、先行きも更なる悪化の恐れ》

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.5(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が19.7ポイント拡大した。※DI値▲50台はリーマンショック以来のマイナス値。東日本大震災時より悪業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲31.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲76.0(同▲38.4)、製造業▲61.5(同▲25.0)、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。

【建設業】からは、「待ちの姿勢から顧客の欲しくなる商品、サービス提供を心掛ける」(一般土木建築工事業)、「引越シーズンで畳工事が好調」(畳工事請負・畳製造販売業)、「働き方改革で作業時間が減少。いかに能率よく進められるかが勝負」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「景気の荒波にさらされている今、とにかくキャッシュフローを稼ぎたい」(印刷業)、「新型コロナウイルス感染拡大により、21世紀の産業革命が始まっているようだ。意識改革が望まれる」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「今年は小学生の指導要領に伴う教科書の改訂があり、先生方の指導書の売上が増収。中学、高校と続くので楽しみ」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新型コロナウイルスの影響か分からないが、夜9時以降の来店客が減少。土日夜も以前の勢いが無い」(食堂・レストラン)、「新年度の予定が立たない為、設備投資にブレーキがかかっている」(ソフトウェア業)、「新型コロナウイルスにより中小企業は先が読めない。一般顧客は購買に走らなくなった。しかし、「乱に利あり」で経営手腕を一考するチャンスか」(投資顧問)などのコメントが寄せられた。

◎新型コロナウイルスの影響

「一般顧客の仕事が減少」(畳工事請負・畳製造販売業)、「中国依頼の材料が不足」(電気工事業)、「対策として、テレワーク、時差出勤、セミナー等参加自粛、入社前の体温測定を実施。電車・バス通勤者は希望により自家用車で出勤可。マスク着用、手洗い、アルコール消毒を励行し、来場者には検温、体調の問診を実施」(織物業)、「長期化すれば中国製品の輸入が滞り、代替品によるコストアップを懸念。また、国内景気が停滞すると商用車の使用頻度が落ち、補修用部品の交換比率低下による売上減を予想。車検期間の1か月延長も決定し、例年、年度末は大きく売上が伸びるのに減少する可能性も」(自動車付属品製造業)、「じわじわ悪化している」(紙製容器製造業)、「来店客数、売上が激減。いつまで続くか不透明」(婦人・子供服小売業)、「来店客数が激減し、3月消費に合わせた仕入は無駄に。客数減少で従業員は過剰状態。人件費で倒産の危険も」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「時短営業の衣料品は客数、売上共に減少。食品は備蓄関連の米、麺類、水等は好調。また、免疫UP食品も好調だが、衣料品のマイナスは補えていない」(大型小売店)、「3月に入り入店客数は前年比30%減、売上27%減。特に衣料品・服飾雑貨は50%減。食料品は15%減と影響度は低い」(百貨店)「学校の休校により親や祖父母と一緒に来店する子供達が増え、好影響」(書籍・文房具小売業)、「売上が前年比20%減(時短営業中)。特に衣料品・服飾品、飲食の落ち込みが大きい。生活雑貨、化粧品、食料品は厳しい状況下でも健闘。インバウンドの売上は小さい為、影響は少ない」(各種商品小売業)、「近隣センターの閉鎖に伴いカフェの売上減少。卒業関連の特注、イベント売上が無くなり、経営に大打撃！」(洋菓子店)、「影響を受け製品在庫が過剰に。損して売るわけにもいかない」(食料・飲料卸売業)、「大口の謝恩会、送別会、結婚式等はキャンセルになるも、店売りは落ちていない」(洋菓子店)、「入館者、売上ともに35~40%の激減」(公衆浴場業)、「見込み生産をする為、急な買いだめに対応する必要があり、従業員(パート)数の適正が分からない」(菓子・パン小売業)、「アルバイトを減らした。売上が無くても固定費はかかる」(各種商品小売業)、「2~3月はネット、チラシ共に反響数が激減。現地売り出しの来場者も減少。業者の土地仕入も様子見状態」(不動産管理業)、「住居系賃貸需給は、しばらく底堅く推移すると思うが、景気に左右される商業系賃貸は厳しそう。想定外の経営環境の変化に対応できるよう財務強化に努めたい」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	±0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
見通し	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲58.9	▲55.8

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 46.4	▲ 59.1	▲ 52.1	▲ 57.7	▲ 12.6	▲ 14.0	△ 4.2	±0.0
建設	▲ 21.0	▲ 52.6	▲ 36.8	▲ 47.3	▲ 15.7	▲ 21.0	△ 31.5	△ 21.0
製造	▲ 61.5	▲ 38.4	▲ 46.1	▲ 46.1	▲ 38.4	▲ 30.7	±0.0	▲ 15.3
卸・小売	▲ 72.0	▲ 72.0	▲ 72.0	▲ 68.0	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 12.0	▲ 8.0
サービス	▲ 21.4	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 64.2	△ 7.1	△ 7.1	±0.0	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 53.5	▲ 59.1	▲ 21.1	▲ 36.6
建設	▲ 31.5	▲ 52.6	▲ 5.2	▲ 21.0
製造	▲ 61.5	▲ 53.8	▲ 15.3	▲ 30.7
卸・小売	▲ 76.0	▲ 72.0	▲ 36.0	▲ 52.0
サービス	▲ 35.7	▲ 50.0	▲ 21.4	▲ 35.7

2020年3月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.5に対し、「CCI-LOBO」が▲49.0で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.4に対し、「CCI-LOBO」が▲41.3で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲52.1に対し、「CCI-LOBO」が▲43.5で柏の方がマイナス幅が8.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲22.9で柏の方がマイナス幅が10.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.2に対し、「CCI-LOBO」が△12.9で柏の方がプラス幅が8.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.1に対し、「CCI-LOBO」が▲27.3で柏の方がマイナス幅が6.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

【2020年3月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	待ちの姿勢から顧客の欲しくなる商品、サービスの提供を心掛ける。	積極経営	一般土木建築工事業
	新型コロナウイルスの影響で一般顧客の仕事は減少している。しかし、引越シーズンの為、畳工事が好調。	新型コロナウイルスの影響	畳工事請負・畳製造販売業
	働き方改革で作業時間が足りなくなる。いかに能率よく進められるかが勝負。	働き方改革	職別工事業
	新型コロナウイルスの影響は中国依頼の材料が不足。先行きの見通しが不明。経済の動向が全くつかめない。	新型コロナウイルスの影響	電気工事業
製造業	新型コロナウイルス対策として、テレワーク、時差出勤、セミナー等参加自粛、出社前の体温測定を実施。電車・バス通勤者は希望により自家用車で出勤可。マスク着用、手洗い、アルコール消毒を励行し、来場者には検温、体調の問診を実施している。	新型コロナウイルスの対策	織物業
	景気の荒波にさらされている今、とにかくキャッシュフローを稼ぎたい。生きていくために必要な経済がこれ以上悪くならないように頑張りたい。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	新型コロナウイルス感染拡大が長期化すれば中国製品の輸入が滞り、代替品によるコストアップを懸念。また、国内景気が停滞すると商用車の使用頻度が落ち、補修用部品の交換比率低下による売上減を予想。車検期間の1か月延長も決定し、例年、年度末は大きく売上が伸びるのに減少する可能性もある。	新型コロナウイルスの影響	自動車付属品製造業
	新型コロナウイルス感染拡大により、21世紀の産業革命が始まっているようだ。それぞれの意識改革が望まれる。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	新型コロナウイルスの影響がじわじわきている。	新型コロナウイルスの影響	紙製容器製造業
卸小売業	新型コロナウイルスの影響は大きく、来店客数は激減。売上も激減し、いつまで続くか不透明。	新型コロナウイルスの影響	婦人・子供服小売業
	新型コロナウイルスの影響で来店客数激減。3月消費に合わせた仕入が無駄に。客数減少で従業員過剰状態。このままでは人件費で倒産の危険性もあり得る。	新型コロナウイルスの影響	時計・眼鏡・光学機械小売業
	新型コロナウイルスの影響で、時短営業している衣料品は、客数、売上共に減少。食品売上は備蓄関連の米、麺類、水等は好調。また、免疫UP食品は好調。ただし、衣料品のマイナスを補うまでには至っていない。	新型コロナウイルスの影響	大型小売店
	新型コロナウイルスの影響は少なく、注意するだけである。今年は小学生の指導要領に伴う教科書の改訂があり、先生方の指導書の売上が増収。中学、高校と続くので楽しみ。	新型コロナウイルスの影響 売上増加	書籍・文房具小売業
	3月に入り入店客数前年比30%減、売上27%減。特に衣料品・服飾雑貨は50%減。食料品は15%減と影響度は低い。	新型コロナウイルスの影響	百貨店
	平日、休校となった影響で親や祖父母と一緒に来店する子供達が来店。好影響が出た。	新型コロナウイルスの影響	書籍・文房具小売業
	新型コロナウイルスの影響に伴い、売上が前年比20%減(※2月28日より時短営業を継続中)。特に衣料品・服飾品と飲食の落ち込みが大きい。生活雑貨、化粧品、食料品は厳しい状況下でも健闘している。インバウンドの売上は小さい為、大きな落ち込みはない。	新型コロナウイルスの影響	各種商品小売業
	新型コロナウイルスの影響が大きい。近隣センター閉鎖によりカフェは売上が減少し、卒業関連の特注が無くなる。3月のイベントも全て中止。経営に大打撃！	新型コロナウイルスの影響	洋菓子店
	新型コロナウイルス感染症の影響で、製品在庫が過剰になる。損して売るわけにもいかない。	新型コロナウイルスの影響	食料・飲料卸売業
	新型コロナウイルスの影響で大口の謝恩会、送別会、結婚式等はキャンセルになるも、店売りは落ちていない。	新型コロナウイルスの影響	洋菓子店
	新型コロナウイルスの影響により、入館者、売上ともに35～40%の激減。	新型コロナウイルスの影響	公衆浴場業
	新型コロナウイルスの影響はある。急な買いだめに対応する必要があり、見込み生産をする為、従業員(パート)数の適正が分からない。	新型コロナウイルスの影響	菓子・パン小売業
新型コロナウイルスの影響で自粛ムード。街に人がいない。アルバイトを減らした。売上が無くても固定費はかかる。	新型コロナウイルスの影響	各種商品小売業	
サービス業	新型コロナウイルスの影響かは分からないが、夜9時以降の来店客が減少。土日夜も以前の勢いがなくなっている。	来店客数減少	食堂・レストラン
	2～3月は新型コロナウイルスの影響で、ネット、チラシ共に反響数が激減。現地売り出しの来場者も減少。業者の土地仕入も様子見の状態。これがいつまで続くか不安。今は一日も早く終息する事を祈るのみ。	新型コロナウイルスの影響	不動産管理業
	新年度の予定が立たず、設備投資にブレーキがかかっている。	先行き不透明	ソフトウェア業
	住居系賃貸需給は、しばらく底堅く推移すると思うが、景気に左右される商業系賃貸は厳しい環境を迎えそう。想定外の経営環境の変化にも対応できるよう財務強化に努めていきたい。	新型コロナウイルスの影響	不動産賃貸・管理業
	新型コロナウイルスにより中小企業は先が読めない。一般顧客は購買に走らなくなった。しかし、「乱に利あり」で経営手腕を一考するチャンスか。	新型コロナウイルスの影響	投資顧問

◎新型コロナウイルスの影響

「一般顧客の仕事が減少」(畳工事請負・畳製造販売業)、「中国依頼の材料が不足」(電気工事業)、「対策として、テレワーク、時差出勤、セミナー等参加自粛、入社前の体温測定を実施。電車・バス通勤者は希望により自家用車で出勤可。マスク着用、手洗い、アルコール消毒を励行し、来場者には検温、体調の問診を実施」(織物業)、「長期化すれば中国製品の輸入が滞り、代替品によるコストアップを懸念。また、国内景気が停滞すると商用車の使用頻度が落ち、補修用部品の交換比率低下による売上減を予想。車検期間の1か月延長も決定し、例年、年度末は大きく売上が伸びるのに減少する可能性も」(自動車付属品製造業)、「じわじわ悪化している」(紙製容器製造業)、「来店客数、売上が激減。いつまで続くか不透明」(婦人・子供服小売業)、「来店客数が激減し、3月消費に合わせた仕入は無駄に。客数減少で従業員は過剰状態。人件費で倒産の危険も」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「時短営業の衣料品は客数、売上共に減少。食品は備蓄関連の米、麺類、水等は好調。また、免疫UP食品も好調だが、衣料品のマイナスは補えていない」(大型小売店)、「3月に入り来店客数は前年比30%減、売上27%減。特に衣料品・服飾雑貨は50%減。食料品は15%減と影響度は低い」(百貨店)「学校の休校により親や祖父母と一緒に来店する子供達が増え、好影響」(書籍・文房具小売業)、「売上が前年比20%減(時短営業中)。特に衣料品・服飾品、飲食の落ち込みが大きい。生活雑貨、化粧品、食料品は厳しい状況下でも健闘。インバウンドの売上は小さい為、影響は少ない」(各種商品小売業)、「近隣センターの閉鎖に伴いカフェの売上減少。卒業関連の特注、イベント売上が無くなり、経営に大打撃！」(洋菓子店)、「影響を受け製品在庫が過剰に。損して売るわけにもいかない」(食料・飲料卸売業)、「大口の謝恩会、送別会、結婚式等はキャンセルになるも、店売りは落ちていない」(洋菓子店)、「入館者、売上ともに35~40%の激減」(公衆浴場業)、「見込み生産をする為、急な買込にたいして対応する必要があり、従業員(パート)数の適正が分からない」(菓子・パン小売業)、「アルバイトを減らした。売上が無くても固定費はかかる」(各種商品小売業)、「2~3月はネット、チラシ共に反響数が激減。現地売り出しの来場者も減少。業者の土地仕入も様子見状態」(不動産管理業)、「住居系賃貸需給は、しばらく底堅く推移すると思うが、景気に左右される商業系賃貸は厳しそう。想定外の経営環境の変化に対応できるよう財務強化に努めたい」(不動産賃貸・管理業)との声が寄せられた。

2020年3月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 53.5	 ▲ 31.5	 ▲ 61.5	 ▲ 76.0	 ▲ 35.7
CCI-LOBO	 ▲ 49.0	 ▲ 18.6	 ▲ 51.7	 ▲ 58.9	 ▲ 55.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 46.4	 ▲ 21.0	 ▲ 61.5	 ▲ 72.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 41.3	 ▲ 12.3	 ▲ 47.4	 ▲ 47.3	 ▲ 48.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 52.1	 ▲ 36.8	 ▲ 46.1	 ▲ 72.0	 ▲ 42.8
CCI-LOBO	 ▲ 43.5	 ▲ 17.7	 ▲ 44.3	 ▲ 50.1	 ▲ 53.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.6	 ▲ 15.7	 ▲ 38.4	 ▲ 8.0	 7.1
CCI-LOBO	 ▲ 22.9	 ▲ 36.9	 ▲ 19.4	 ▲ 22.9	 ▲ 17.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.2	 31.5	 ±0.0	 ▲ 12.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 12.9	 32.1	 6.2	 15.1	 8.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.1	 ▲ 5.2	 ▲ 15.3	 ▲ 36.0	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 27.3	 ▲ 9.0	 ▲ 25.6	 ▲ 32.4	 ▲ 37.7

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2020年3月13日～19日

調査対象：全国の335商工会議所が2,630企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、過去最大の悪化幅を記録。先行きは、新型コロナウイルス流行で不安広がる

3月の全産業合計の業況DIは、▲49.0と、前月から▲16.4ポイントの悪化。新型コロナウイルス流行の影響により、インバウンドを含む観光需要の減少に加え、外出の自粛や消費マインドの低下、イベントの中止等に伴う相次ぐキャンセルにより、客足が激減した宿泊業や飲食業、観光関連業を中心とするサービス業や小売業の業況感が大幅に悪化した。また、サプライチェーンの混乱や部品、資材等の調達難による生産活動への影響も続いており、新型コロナウイルスの世界的な流行による世界経済の先行き不透明感が広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は一989年4月調査開始以来、過去最大の悪化幅(※)を記録した(※)これまでは、2011年4月時の▲11.8ポイント)。

先行きについては、先行き見通しDIが▲56.5(今

月比▲7.5ポイント)と悪化を見込む。世界的な新型コロナウイルスの流行拡大に伴うインバウンドを含む観光需要の減少やサプライチェーン・生産活動への影響に加え、消費マインドの低迷、消費税率引上げ、人手不足による人件費の上昇、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、世界経済の動向など不透明感が増す中、中小企業の業況感は2011年6月以来のマイナス50台が見込まれる厳しい状況。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「工事現場で働く社員や作業員が新型コロナウイルスに感染することや、感染者が最も懸念している。感染者が出れば工事を中断せざるを得ず、工期が延びればその分のコスト増の影響も大きい。手洗いやうがい徹底す

るようになっているが、現場は濃厚接触に近い状態での作業もあり、不安感は拭えない」(一般工事業)、「新型コロナウイルス流行の影響に伴う生産・物流の混乱により、中国で生産されていたシステムキッチンや洗面化粧台、トイレ、ユニットバス等の住宅設備機器の納品に遅れが出ている。竣工時期に影響を及ぼす可能性があり、なんとか調達できないか試行錯誤を続けている」(管工事業)

出張が難しくなり、業務に大きな支障が出ている。景気の悪化により取引先の倒産等が起きないか、懸念している」(建築材料卸売業)、「給食や旅館、外食産業からの引き合いが減少し、市場価格が月を追うごとに下落し続けており、売上が激減している。予想以上の落ち込みであり、今後の状況次第では資金繰りにも影響が及ぶ」(農畜産水産物卸売業)

【小売業】「新型コロナウイルス流行の影響により、食料品のまとめ買い傾向が見られたものの、外出を控える動きの広がりを受けた客数減少や営業時間の短縮により、生鮮類を中心に売上は落ち込み、全体の売上は2割減少した。資金繰りが非常に厳しくなっており、長期化すれば倒産もありうる」(スーパー)、「各種イベントの中止や延期により催事関係の受注が無くなり、売上・採算ともに悪化した一方、自宅用の生花の需要が若干伸びている」(花・植木小売業)

【卸売業】「中国で生産されている資材が入荷せず、売上・採算ともに大きく悪化した。諸外国の入国規制により海外

【サービス業】「歓送迎会や謝恩会のシーズンを迎え繁忙期のはずが、宴会や披露宴、各種イベント、会議などのキャン

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲24.1	▲7.9	▲25.3	▲26.9	▲38.6	▲20.4
11月	▲26.8	▲6.9	▲28.5	▲29.4	▲42.4	▲23.8
12月	▲29.4	▲12.8	▲35.8	▲31.4	▲40.4	▲23.9
1月	▲26.8	▲10.4	▲31.1	▲28.9	▲38.0	▲23.4
2月	▲32.6	▲13.0	▲41.5	▲37.5	▲39.5	▲28.6
3月	▲49.0	▲18.6	▲51.7	▲53.1	▲58.9	▲55.8
見通し	▲56.5	▲33.0	▲55.7	▲62.2	▲65.5	▲62.1

セルが相次ぎ、売上は前年比3割程度にまで落ち込んでいる。予約状況に応じた営業時間の短縮や社員の残業の抑制によりコスト減に努めているが、流行が長期化すれば経営悪化は避けられない」(飲食業)、「団体の宿泊客や宴会の予約の9割がキャンセルされ、例年の3分の1程度の売上。収束に6月頃までかかれば廃業も視野にいなければならない」(宿泊業)

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：2020年3月25日～4月7日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲34.2	▲20.0	▲28.5	▲59.0	▲21.4
11月	▲25.3	▲10.5	▲38.4	▲42.3	±0.0
12月	▲26.0	▲10.5	▲42.8	▲41.6	▲6.2
1月	▲17.1	▲31.2	▲14.2	▲26.9	△14.2
2月	▲33.8	▲33.3	▲25.0	▲38.4	▲33.3
3月	▲53.5	▲31.5	▲61.5	▲76.0	▲35.7
見通し	▲59.1	▲52.6	▲53.8	▲72.0	▲50.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

全産業D Iは再び大幅悪化。新型コロナウイルスの影響は深刻で、先行きも更なる悪化の恐れ

3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.5(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が19.7ポイント拡大した。※D I値▲50台はリーマンショック以来のマイナス値。東日本大震災時より悪化。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲31.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の

きい順に、卸小売業▲76.0(同▲38.4)、製造業▲61.5(同▲25.0)、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。

【建設業】からは、「待ちの姿勢から顧客の欲しくなる商品、サービス提供を心掛ける」(一般土木建築工事業)、「引越しシーズンで畳工事が好調」(畳工事請負・畳製造販売業)、「働き方改革で作業時間が減少。いかに能率よく進められるかが勝負」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「景気の荒波にさらされている今、となくキャッシュフローを稼ごう」と、「印刷業」(印刷業)、「新型コロナウイルス感染拡大により、21世紀の産業革命が始まっているようだ。意識改革が望まれる」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「今年小学生の指導要領に伴う教科書の改訂があり、先生方の指導書の売上が増収。中学、高校と続くので楽しみ」(書籍・文房具小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「新型コロナウイルスの影響が少なからずある可能性も」(自動車付

属品製造業、「じわじわ悪化している」(紙製容器製造業)、「来店客数、売上が激減。いつまで続くか不透明」(婦人・子供服小売業)、「来店客数が激減し、3月消費に合わせた仕入は無駄に。客数減少で従業員は過剰状態。人件費で倒産の危険も」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「時短営業の衣料品は客数、売上共に減少。食品は備蓄関連の米、麺類、水等は好調。また、免疫UP食品も好調だが、衣料品のマイナスは補えていない」(大型小売店)、「3月に入り入店客数は前年比30%減、売上27%減。特に衣料品・服飾雑貨は50%減。食料品は15%減」と影響度は低い」(百貨店)

「学校の休校により親や祖母と一緒に来店する子供達が増え、好影響」(書籍・文房具小売業)、「売上が前年比20%減(時短営業中)。特に衣料品・服飾品、飲食の落ち込みが大きい。生活雑貨、化粧品、食料品は厳しい状況下でも健闘。インバウンドの売上は小さいが、影響は少ない」(各種商品小売業)、「近い隣センターの閉鎖に伴いカフェの売上減少。卒業関連の特注、イベント売上が無くなり、経営に大打撃！」(洋菓子店)、「影響を受け製品在庫が過剰に。損して売るわけに

いかない」(食料・飲料卸売業)、「大口の謝恩会、送別会、結婚式等はキャンセルになるも、店売りは落ちていない」(洋菓子店)、「入館者、売上ともに35〜40%の激減」(公衆浴場業)、「見込み生産をする為、急な買戻しにに対応する必要があり、従業員(パート)数の適正が分からない」(菓子・パン小売業)、「アルバイトを減らした。売上が無くても固定費はかか

る」(各種商品小売業)、「2〜3月はネット、チラシ共に反響数が激減。現地売り出しの来場者も減少。業者の土地仕入も様子見状態」(不動産管理業)、「住居系賃貸需給は、しばらく底堅く推移すると思うが、景気に左右される商業系賃貸は厳しそう。想定外の経営環境の変化に対応できるよう財務強化に努めた」(不動産賃貸・管理業)との声

が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-100)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲53.5に対し、「CCI-100」が▲49.0で柏の方がマ